**説教20240211一コリ3：1-9マタイ5：21-26「怒りの炎は」**

**いかに幸いなことでしょう。あなたの庭で過ごす一日は千日にまさる恵みです。**

**この御言葉は大変有名で、記憶しておられる方も多いと思います。**

**あなたの庭で過ごす一日は千日にまさる恵みです。**

**では、この御言葉は聖書のどこに記されているでしょう、と言ったクイズ形式で、聖書の知識を競うようなことが、一昔前までは行われていました。その答えは詩編84編11節ですが、そう言うクイズ形式は今では段々と廃れています。**

**何故廃れているかと言いますと、今では、パソコンで「庭で過ごす一日は千日」という様にキーワード検索すれば、たちまち、この御言葉が解説付きで、画面に現れるようになっているからです。私たちは、最早、何編何節に書いてある、と言った知識を誇る必要はなく、パソコンなどの現代の利器を利用して、聖書の御言葉に親しむことが出来るようになったのです。**

**とはいえ、いつの時代でも変わらず大切なことは、私たち人間が聖書の御言葉に親しんで、御言葉を味わって、それを自分の心と体に染み渡らせていくということです。**

**あなたの庭で過ごす一日は千日にまさる恵みです。という御言葉もまさにこのことを言っているのです。あなたの庭、即ち、この教会で過ごす一日は、千日に勝る恵みです。それは私たちが、ひたすら主イエスキリストのほうに向き直って、彼を礼拝賛美することによって、私たちは主イエスの言葉を、心と体に染み渡らせ、私たちはつくり変えられていくからです。そして、主イエスの体と血である、パンとぶどう液を頂くことによって、益々私たちはキリストにつながる教会の一部とされていくのです。**

**教会の頭すなわちアタマは、主イエスであり、私たち一人ひとりは主イエスに結びつく体の一部分となっていくのです。**

**教会は、この世の見えるものがすべて崩れ去る終末の時迄、主イエスによって守られ、その終末の時には主イエス御自身が姿を現されて、教会を天の御国へと引き上げて下さいます。**

**一方で、聖書には次のような御言葉も記されています。**

**千年といえども御目には／昨日が今日へと移る夜の一時にすぎません。**

**この御言葉は詩編90編４節ですが、ここには先程の御言葉とは正反対のことが記されています。一体主イエスは、一日は千日であると言われているのか、千日は一日に過ぎないと言われているのか、どちらなのでしょうか。それは、どちらもあることだと私は思います。永遠に生きられている主イエスからすれば、この地上での１日を御言葉によって、1000日に勝る幸いのときに変えることも、おできになりますし、反対に、御言葉を味わうことがない人にとっては、1000日が一日の様にそそくさと過ぎ去っていくということになってしまいます。**

**この様に私たち人間が、主イエスの御言葉に親しみ、御言葉を味わうということは、実に大切なことであります。そして、聖書全体に記されている御言葉の一つひとつをどれも除外することなく大切にすることです。そうすれば、やがて来たる終末の時には、この書物としての聖書の御言葉全体が、主イエスキリストの御顔と姿かたちを伴って、私たちの処へと来て下さることでしょう。**

**この別府不老町教会も今日で、この地上での113年周年の節目を迎えることが出来ました。この113年の歩みを守って下さった主イエスに感謝をし、御名をほめたたえます。**

**さきほども申し上げましたように、主イエスはこの113年の私たちの歩みを、113×1000すなわち１１万３千年にもして下さるお方です。一方で、この113年を１日の様に過ぎ去れせることが出来る御方でもあります。**

**私たちは、このように畏れ多い主イエスの御言葉に、すがりつき、いつも御言葉に救いを求めて、御言葉を味わい、これからの教会での月日を、主イエスによって、一日は千日にまさる恵みとして受け取って参りたいと願います。**

**今日のマタイ福音書は、このところ聴き続けている主イエスの山上の説教の一部であります。さて、音楽にもメジャーとマイナーがあるように、聖書の御言葉にも、明るく響く処と、暗さを味わう箇所とがあります。私たちはそのどちらをも味わって参りましょう。**

**主イエスの山上の説教は、いかに幸いなことでしょうという、８つの幸いの教えによって語り始められました。そして今日の箇所で、イエス様の説教は、マイナーな箇所へと入りました。**

**今日の聖書箇所で、イエス様は私たち人間が誰しも持っている罪について語られます。この罪のことを原罪とも言いますが、この原罪とは、アダムとイブとが最初に犯した罪で、それから人間全体に波及してしまった罪のことです。**

**イエス様は先ず『殺すな。人を殺した者は裁きを受ける』という十戒の一つを宣べられました。それからイエス様はこの人を殺すという罪に勝るとも劣らない、人間の原罪について語りはじめました。**

**その原罪と言うのは、私たち人間が、心の中で自ずと悪い思いを抱いてしまうという、心の中で犯している罪のことです。イエス様の今日の説教は実に具体的であります。聖書に記されています、『ばか』『愚か者』という語句は、私たちが日常生活で、口にする語句であります。いやいや馬鹿にしないで下さい、私は決してそんな悪い言葉を口にすることはありませんと言う方がおられれば、ごめんなさい。しかし、そうではあっても、私たちは、言葉にしないまでも、思いのレベルで、こういった悪い心をどうしても抱いてしまうということは否定できないのではないでしょうか。**

**主イエスは、私たちがこのように悪い心、悪い思いをどうしても抱いてしまう、ということを頭ごなしに否定し、それゆえに私たちを見放される御方では決してありません。反対に主イエスは、そんな今のあなたに必要な御言葉と、そしてそれを聞く時間とをお与えになって、恵んで下さるお方です。そしてその御言葉を聞く時間を恵まれることによって、あなたは、悔い改めへと導かれ、主イエスの御言葉を味わい知る者へと変えられていくのです。**

**私たちが、この地上で、悪い心、悪い思いを持ってしまうという罪は、今日の説教での様に、イエス様から厳しく諭されないと、自分自身では自覚できない、やり過ごしてしまうような罪でもあります。**

**最初に語られた人を殺すという罪を犯した人は、その目に見える罪によって、この地上での裁判を受けることになります。そしてその人は牢屋に入れられますが、主イエスはその様なこの世の罪人をも見捨てることなく、その牢屋の中にやって来られて、彼に必要な御言葉と、必要な時間とをお与えになり、彼が主イエスの御前に悔い改めて、その罪が赦されて、天の国へと入れられることを、ひたすら願っておられます。**

**この様に、殺人と言う、この地上で明らかに罪を犯してしまった人の上には、明らかに次なる道が主イエスによって用意されていく事になります。**

**それに比べて、人の事を『ばか』『愚か者』と思ってしまうといった思いの罪のほうはどうでしょうか。先ほども申し上げましたように、私たち人間には、思っているだけで行いへは至っていないような事柄は、大したことないと思い過ごして、罪の一つにも数えないという傾向があります。そんなことは大したことではないと思ってしまうのです。**

**しかし、主イエスは今日の説教で、私たちが罪とも思っていない思いによる罪を取り上げて、この罪が、人を殺すという罪に勝るとも劣らない、人間の罪であるということを説明されて、諭されたのでした。**

**だから、あなたが祭壇に供え物を献げようとし、兄弟が自分に反感を持っているのをそこで思い出したなら、その供え物を祭壇の前に置き、まず行って兄弟と仲直りをし、それから帰って来て、供え物を献げなさい。あなたを訴える人と一緒に道を行く場合、途中で早く和解しなさい。さもないと、その人はあなたを裁判官に引き渡し、裁判官は下役に引き渡し、あなたは牢に投げ込まれるにちがいない。**

**今日の主イエスの説教は、このように、私たちの心の中にある罪について焦点が当てられています。反感を感じあっている兄弟姉妹が、礼拝を捧げる前に、先ず、仲直りをする事、相手を訴えている者に対しては、早くその相手と和解をしなさいと、主イエスは勧められています。**

**イエス様というお方は、この地上で起っている出来事に対してあくまで、現場に即して現実的に手を差し伸べ御手を働かせるお方です。つまり、イエス様は、反感を感じあっているあなた方はよろしくないから、もう必要ないとは決して言われないのです。むしろ今のそれぞれの現状を認めた上で、それではあなた方はこうしなさいという御言葉をその都度恵んで下さるお方です。相手を訴えている者に対しては、早くその相手と和解をしなさいという御言葉を恵んで下さるのです。私たちはその恵みの御言葉を素直に受け入れそれに従うほうが幸いです。**

**その恵みの御言葉を私たちが日々の歩みの中で、受け入れていくか、受け入れていかないかが、私たちのこの地上生活で、イエス様に従って行けるかどうかの分かれ道になることでしょう。**

**私たちは、この地上の人生において、主イエスの御言葉を隣り人達に伝えていくという役割を担っています。この役割のことを伝道とも言いますけれども、それではその伝道と言うことの中身はどういったことなのでしょうか。**

**その中身は今日の聖書箇所にもはっきりと示されています。**

**私たちの一人ひとりの人生、そして周りの環境、そして詰まるところこの世の中全体は、私たちの口を通して語られる御言葉によって、形作られて行きます。**

**世界をつくられる主イエスの御言葉は、この地上にあって、私たち人間の口から出る言葉一つ一つによって語られるのです。そう言う意味で、私たちが語る言葉と言うのは大変、重いものなのです。**

**私たちの、これからの人生が、いかに幸いなことでしょう、あなたは、幸いですね。本当に幸せです、といった言葉によって、常に、とにかく、生かされるならば、私たちは、神の恵みと御力によって、永遠に続く大いなる喜びの道を歩み続けることになるでしょう。**

**しかし、反対に、相手に対して『ばか』『愚か者』という悪い思いを抱く生活を、何の悔い改めもなしに続けていくとしたら、その結果は火を見るよりも明らかなことでしょう。**

**今日のコリント書の御言葉を用いれば、私たちは教会と言う神の建物の為に、植える者、水を注ぐ者たちであります。その一人ひとりの業は小さくはかない業であります。しかし、その業を、主イエスが豊かに用いて、教会を成長へと導いて下さいます。**

**私たちのこの地上での、思い、言葉、行いはどれをとっても、小さな出来事です。しかしそのたえざる出来事の積み重ねによって、私たちは、主イエスの十字架の死、それからの復活と永遠の命への道へと導かれます。どうかその一つ一つが主イエスの御心に適い、幸いなことととされますよう祈り求めて参りましょう。**

**父なる神**

**主よ、今日は、別府不老町教会が113周年を迎える記念の主日です。どうかあなたがこの記念の日を格別に祝し守って下さい。**

**今、この目で見ることが出来ないあなたに、私たちが信仰と希望を見出し、あなたを愛することが出来る幸いを覚えます。**

**この世の全ての物事は、形を変えて過ぎ去っていきますが、あなたが新しい形につくりかえ、再び生かして下さいます。ありがとうございます。**

**私たちが、この世での旅路にあって、移り変わる景色を喜びながら、変わることがないあなたのみ国へと導かれますように。**

**別府不老町教会につらなるお一人お一人が、益々、キリストの体の枝とされ、キリストと一つとされて、御業を行っていく事が出来ますように。あなたが教会にあって、御栄光を豊かに現わして下さい。**